

リニア新幹線の光と影を学ぶ 2025

2学期後半のグレートアースは遊びを通して磨かれた感性で命について学びを深めます。1学期には海の山の繋がり（環境）を、9月は広島原爆投下について（平和）を、そして今回は社会と向き合う時間です。グレートアースが誕生してからずっと追いつけているテーマ「リニア新幹線工事」についてです。日本中様々なところで工事をきっかけに、そこに息づく命が危機にさらされている現状、人の生活や心に与える影響など学んできました。昨年度は南アルプストンネル工事を通して、南アルプスの素敵な生き物たちについても学びました。そして、今年度は岐阜県瑞浪市大湫町。トンネル工事により、ある日水が枯れた町を訪問しました。高校生たちが何を感じ、何を学び、どんな未来をみつめたのか、是非、お読みください。その内容は全ての人に対して問いかけていると思います。

リニア新幹線トンネル工事で揺れる町
「岐阜県瑞浪市大湫町」ある日、水が涸れた

ほじまり

昨年5月、ニュースを見ていて、突然「リニア中央新幹線トンネル工事に伴う、水枯れ（井枯れ）が発生しました」という内容が登場しました。地域を確認したら、岐阜県瑞浪市大湫町で、



そのあたりは黄柳野高校では馴染みの地域でした。瑞浪市には昔から探検部がクライミングをするために通っていたのです。

「あの瑞浪で?」「そんなところがリニアの沿線?」というのが正直な最初の印象。気になったのでニュースをよく見るようになりました。すると、昨年GEでも訪問した南アルプストンネル工事で懸念されていることが瑞浪市大湫町で起こっていたのです。それは地域の地下にトンネルを掘り始めたことで、地中の水が抜け、地域で大切にしていた井戸の水が無くなったということです。身近な地域だったので、さらに情報を得てみると、水が枯れた井戸は地域にとって日常的に使用していたもので、大切なものであること、地域の方は困惑し、工事をしているJR東海は解決策を見いだせていないことがわかってきました。これはとんでもないことが起きている…リニア工事がたくさんある場所で問題が起きていることは知っていましたが、このことをキッカケに一気に身近なことになってきました。そして、今年度になってもいつも心のどこかで大湫町のことがひっかかっていた。

夏になり、個人的に南アルプスに5日間の沢登りに入りました。南アルプスは素晴らしい世界です。豊かな自然・命溢れる環境があり、ここに来るといつも心が高揚します。そして同時に、「この地下にリニアトンネルができれば、この豊かな沢と命が失われてしまうのではないか…」という不安がよぎります。下山後、「リニア問題をそのままにできない」という気持ちはさらに大きくなり、少しでもこの現状を学ぶ必要があると考え、行動に出たのです。「あの瑞浪に行かない」「大湫の水枯れの現状を自らの心と体、全てで見てこない」「未来を作る高校生たちと学びたい」と思いました。そして、知り合いを頼りに大湫の方々と連絡をとり、実現した今回の大湫町訪問です。その訪問記をここで記したいと思います。

被害① 井戸枯れ

田んぼも傾き、水が均等にいき渡らない



水が涸れた井戸
(地面が見える)



地盤沈下で地面が
がぶれた



地盤沈下で建物が
傾いた

被害② 地盤沈下

大湫の現状:予想を越える今…

11月27日大湫町に到着した時、若干緊張をしていました。その原因は水枯れが起きた地域の方が今どんな気持ちなのか…色々考えてしまっていたからです。悲痛な面持ちなのは?私たちの訪問や質問で心の負担が大きくなるのか…と想像をしていました。到着してすぐに数名の地元の方が登場し、簡単な自己紹介。まだ地域の方全員が集まっていなかったけれど、あれよあれよという間に水枯れが原因で起きた「地盤沈下」の建物への案内が始まったのです。その勢いは力強く、なぜか心地よく、私たちは自然と大湫の皆さんについていったのです。ついて行きたくなったのです。建物に到着すると考える間もなく「ここがこうなんだ」「入ってみて」「地域ではこんな話がある」など、どんどん教えてくれます。私が心配していたことはあっという間に吹っ飛びました。地域の方は現状を知っ

てほしかったです。あまり突っ込んだことを聞きすぎるとまずいかな…なんてことは全くありませんでした。むしろ地域の方は「もっと聞いて!」「この大湫の現状を見て!」という姿勢で今日を迎えてくれました。そしてそれを感じとってからは、こちらも遠慮なくお話しを開始です。高校生たちも同じ感覚になったのか「ここは何ですか?」「なんでこうなっているの?」と積極的に質問が始まりました。傾いた建物に入室すると気持ち悪さが襲ってきます。そこは簡単な修繕がされ、今もなお地域の方が使っているそうです。ボールをおけば一定の場所に転がっていきます。みんな騒然としました。「ここで生活しているのか…」皆の心の声が聞こえてくるようでした。田んぼも高低差が生じ、大切な米を育てることに支障が生じています。死活問題です。

高校生が「えっ!」と一番思ったのは枯れた井戸を見た時です。「地面が見える…」5m程の深さがある井戸は地面が見えていており、水が一滴もなかったのです。それが数か所に及びます。「この水は何に使っていたんですか?」「飲み水、洗濯…生活すべてだよ」と聞いた瞬間、大湫の生活が私たちの想像と違うことに気づきました。大湫の方々は生活のほとんどを山の水（井戸）で賄っていたのです。市が用意した水道水のみで生きている私たちの生活とは違っていたのです。大湫町の中にはたくさんの井戸があり、地域の方がみんな管理をしています。市の水道水もありますがそれはメインではなく、何かあった時の予備という感覚のようです。「この方々は井戸の水で生きていたんだ…」そう気づいた私たちは今回の水枯れがどれほど深刻なことなのか気づきました。

大湫の水は心、その心と繋がる

水枯れ問題を集めた映像を見た時、大湫の方が瑞浪市やJR東海に「代替水道をつけて、水が出れば良いって問題じゃないんだ！」と言っていたことを思い出しました。この問題は大湫の命の問題。生き方の問題。代わりはないのです。私たちが案内されていたのは水枯れ現場ではなく、大湫の命の源だったです。

70代のおじいちゃんは「自然を壊して生きていくことは駄目だよ」「10分20分早く移動する必要はないよ。ゆっくり余裕をもって生きていくことが大切だよ」と語っていました。そのおじいちゃんは大湫生まれ、大湫育ち。田畑を耕し、池で魚を釣り、冬に凍ればそこでスキーをして遊ぶ。

「ここも水が流れなくなった」「流れている水、全てが飲めたんだ。飲み物をもってでかけることはなかったよ。だって、飲み水はいくらでも流れていたんだから」と傾いた田んぼの前で語ってくれました。

山の水で生きていたんだ…自然とともに生きてきたんだ…そんな思いが私たちにめぐります。水枯れによって失われたのは大湫の方々の生き様そのものだったことに気づかされました。

「おじさんの身体は大湫の水でできているんですね」自然とその言葉がでできました。

高校生が続きます「おじいちゃんの70%は大湫産だ！」と。お互い笑顔で温かな時間です。

その後も大湫を一望できる場所からトンネル工事の箇所を確認したり、その都度その都度私たちの質問に丁寧に答えてくれる大湫の方々。最初の緊張はなくなり、お互い思いを共有し、語り合う時間になっていきました。ある方が大湫の地域住民の中での温度差や思いを話してくれた時、思わず言葉を詰まらせる場面がありました。その姿を目の当たりにした高校生たちもまた、目頭が熱くなりました。リニア問題が原因で

人の心は大きく傷つき、今もなお続いている。それを感じた瞬間だったのです。それでも懸命に私たちに現状を伝えてくれる強さも感じ、真剣に聞き入ります。いつの間にかメンバーは大湫の方との距離を縮めていました。



涸れた、ため池に立つ



この日の最後は公民館でじっくり話を聞く時間です。お一人、お一人が自らの思いを丁寧にわかりやす

大湫の方々の思い

●くまさん：水の豊かさ・人の豊かさに惹かれて子どもと引っ越してきました。でも水が無くなり、子どもになんて言っているのか、水道水は出るけど山の水が出ないことをなんと言っているのか…次の世代にこのことをなんと言っているのか私たちの世代が許してしまった。まだ立ち止まるチャンスがある。だからこそ活動をしているし、高校生の皆さんに知ってもらえて嬉しい。大湫のことを他の方にも是非話してほしい。

●あんさん：大湫で生まれ育ちました。リニアに反対しているわけではない。大湫の水を元に戻してほしいんだ。

●たっちゃん：ここで生まれ育ち、ずっと田んぼの整備に関わってきた。サンショウウオ・魚がいることを知っているよ。リニア工事で自然がこんなになるなんて思っていなかった。どこにも水がないんだ。いくら進歩した工事でも自然を壊す工事ならいけない。次の人に伝えてもらいたい。信念を持って伝えてもらいたい。自然で生きることが大切なんだ。

●きりさん：うちはかろうじて山の水が出ています。この水おいしいでしょ。

JR東海に「水枯れはないか？」と聞いた。すでに掘っている事実があり、水抜けは止められない。山岳トンネルは水を抜かないと地盤が固くならない。JR東海はそれを知っていて、地中から水を抜く前提で工事しているとしか思えない。南アルプスは更に深いところを掘る予定。水が抜け枯れる。僕はそれを反対している。

●はせさん：同じ大湫でも問題のある現場から離れると関心が薄れてしまう。あそこがダメならここにしよう…そういう問題なのかどうか考えてほしい。

何のためにリニアがあるのか、自然とともに生きることが大切にされつつあることが確認され、地球は有限であることに気づいていて、それをどう大事にしていけるのか、本当に必要なのか考えることが必要。考えて、みんなで話し合って、自分の意見を持って、答えをみつけていくことが大切だと思う。JR東海は一部の人に話して何かを決めている。そうでなくて大変かもしれないけど、みんなで話し合って決めていくことを大切にしてほしい。

心を通わせる時間

僅かに残る大湫の山の水をいただく。特別な味！

たくさんの方々のメッセージを受け取った

未来へ向かって、繋がり、広がる

この思いは高校生たちが未来を作っていくうえで大切なメッセージでした。リニア問題に限らず、何を大切に生きていくのか…それを問われているように思いました。そして、高校生たちもそれに答えるかのように質問攻めです。お互いの気持ちを打ち明け、聞き合い、語り合う…知識が深まる時間というより、心を通わせる時間でした。

最後に成瀬さんが思いを述べた時、あの大湫生まれ大湫育ちのおじいちゃんの目には涙が溢れていました。私は思わずそのおじいちゃんに抱きつきたくなくなりました。たった半日なのに、大湫が大好きな町になりました。そして、語り合い終了後は公民館の片付けを大湫の方々と一緒に行う高校生たちの姿がありました。自然と、そして会話を弾ませながら。大きな家族のよ

うな…大げさな表現ではない気がします。お別れするのが名残惜しい。また来たい！また来てね！そんなやりとりが続きました。

高校生たちにとって大湫町は身近な地域になりました。と同時にリニア工事身近なものになりました。この気持ちが全ての始まりだと思います。他人事ではなく自分事。誰かが苦しい思いをして得た豊かさは本当の豊かさではない。

それを高校生は誰かに教えらえるのではなく、自らの出会いと学びで感じたのではないのでしょうか。

リニア新幹線の影を目の当たりにした日でした。それと同時に懸命に生きる人との出会いがあり、心でつながる日でもありました。

心の輪が繋がり、広がった日です。



↑大湫の方々の思いを受け止め、高校生たちも思いを伝える。



地域の方々が思いを込めて話をしてくれる。→

※お名前は通称で表記させていただきました。

学び2日目:テーマ「水」、命の繋がりを考える

次の日。リニアの学びは続きます。「水」に焦点を当てて学びます。と言ってもそこはGE!五感を大切にします。五感といえば「食!」前日に大湫でわずかに残る山の水をいただいてきており、その水で「水まんじゅう」を作る作戦がありました。前日の学びがあるので高校生たちはその水を大事に鍋へ入れます。

そしてできたのが水まんじゅう。残った水はそのままいただきます。

「やっぱりこの水は美味しい!」「なんかやわらかい感じがする」と食通になったようなことを語る高校生たち。大湫が彼らにとって特別な地域になったことで、この水も特別になったのです。

できた水まんじゅうも特別です。大湫の味。前日に会った温かな人々の顔が浮かびます。食べ過ぎさんが何名かいたのは言うまでもありません。大湫の方に大感謝です。

水まんじゅうづくりを終え、ここからは水がどんな存在であるか、成瀬さんと服部さん(成瀬さんの山仲間)(昨年南アルプス・リニアトンネル工事のお話をしてくれた方)が語ります。

内容は成瀬さんが昨年度訪問した南アルプス蛇抜沢のこと。この沢はリニアの南アルプストンネル工事が行われた際に大幅に水が減ってしまうことが懸念されています。どんな沢なのか…成瀬さんが実際に沢登りをして見たこと、感じたことを語ってくれました。蛇抜沢の上部には「天鏡池」という池があります。その池の周りには多くの獣道があります。それは獣たちが天鏡池を生きるために利用している証拠です。天鏡池もまた大湫の井戸と同様に命の水でした。そしてそれが涸れてしまうかもしれない。

水は人に限らず全ての命を育むもの。それを成瀬さんは沢登りを通して伝えてくれました。

服部さんは獣たちの話をしてくれました。今、社会問題になっている「クマ」のことです。クマたちが人の生活圏に現れてしまう理由、彼らを駆除という名で殺している現状。彼らも同じ命であること。その命が人の行いによって失われている現状。駆除をすれば全てが解決するのか…という問いかけ。

全ての命が命を全うするためにはどうしたら良いのか…そんなことを考える時間となりました。

そして、高校生たちは「水」とは何なのか、「命」とは何なのかを考えました。

前日の大湫の学びとこの日の水と命の学び…濃厚な時間を過ごした高校生たちに、感じたことをひとりずつ教えてもらう時間を作りました。

その思いを集めてできたのが「水」という詩です。2日間の学びで感じたことを「水」を通して言葉にしました。



市の水道(私たちの家と同じような感覚のもの)大湫には山の水と市の水道2本がある。地域の方が生活に使っているのは山の水。市の水道は予備という感覚

山の水が出ている水道(この鍋をいっぱいにするのに15分はかかる)リニアトンネル工事で大幅に出てくる水が減った

水・命…考えて、思いを語る

植茶拓人:南アルプスには行ったことはありませんが、関連する商品を(天然水などとして)見たことがあります。大湫町で飲んだ水は、その背景にある話を聞いたことで、重みがあると感じました。同様に、南アルプスの天然水も、これからは(環境問題や水の価値という)重みを感じながら飲むことになると思います。

高橋希広:大湫町や服部さんの話聞いて、無関心でいることはいけないと感じています。実際にお話を聞いてみないと知らないことがたくさんありました。現地の人のお話を聞かなければ、物事を表面だけで捉えた意見になってしまうと強く感じました。

小野裕道:何かを便利にする際、私たちはどうしてもそのメリットにばかり目がいきがちです。しかし、大湫町で水が抜けてしまったようなデメリットにも、しっかりと目を向けるべきです。そうすることで、自分たちの成長にもつながると感じました。

熊谷友宏:大湫町へ行き、実際に水が枯れてしまった様子を見て、辛い気持ちになりました。そこに住んでいる人々が大切にしている水、イノシシなどの動物たちが飲んでいる水を、たった一つの会社が奪い去ってしまう。なぜそのようなことができるのかと、怒りが込み上げてきます。実際に南アルプスへ登って見たことはありませんが、そこに暮らす動物たちを軽視していることに納得できません。そのような行為を平然と行うことができる現状に、ムカムカしてしまいました。

山本翔:クマのニュースを見た際、捕獲されたクマが調教されるか殺処分されるかについて調べたことがあります。その選択肢に「調教」とあったため、親に調教とは何か尋ねてみました。私は千葉県在住で、クマが生息していないため、クマがどれほど恐ろしい存在なのかを実感として知りません。それでも、殺処分されることの方が怖いと考えていました。服部さんのお話を聞いて、私と同じような考えを持っていると感じ、親近感を覚えました。水枯れについてのお話を聞いたのですが、その内容が悲しく、まるで涙の味がしたように感じました。水が豊かに湧き出ている、水が枯れていない時期に、大湫町を訪れたかったです。

大湫で僅かに残る「山の水」をいただき、水まんじゅう作りへ。このお宅の方は、山の水を大切に使っていました。

特別な水の、特別な水まんじゅう



命を愛し、リニアと向き合う人たちの話



生き方を考える

この2日間はリニア新幹線に賛成か反対かを定める時間ではありません。大切なことは実際に体験(見聞きする、人と出会う、食べる、語り合う、五感全てを使って感じる…)して、自分の頭で考えること。そして大切にしたいことを見つけることです。それがあって、初めてどう生きていきたいのかが見えてきます。そして決めていってほしいのです。成瀬さんはいつも言っています。「遊んで遊んで(今回のような出会いや学びを含む)みつけた答えは間違った未来を選ばない」と。全ての命が輝く未来に向かって、グレートアースの遊び・学びは続きます。

写真で見る今の**大湫**& 高校生の感想(大湫の方々へのメッセージ)

ため池が涸れる



田んぼが傾く



枯れた池。こんなことは今まで無かった。地域の方が小さい頃は、冬に凍った池でスケートしたそうです。



全カガ、伝えてくれて♡♡♡
 ♡♡ ありがとうございました。
 ♡♡ 今の**大湫**町だけじゃなくて、
 日本全体の問題を、全身で
 感じました。今ある問題は
 一緒に解決したい。未来の
 ことは、私たちに任せたい。
 悲しいことだけじゃなくて、おばさん
 の温かさもたっぷり感じました。
 本当にありがとうございました。こぼみ

彼が立っている真下をリニアが通る予定。この地下にトンネルを掘る計画です。この田んぼも地盤沈下で傾いてしまった。

地盤沈下で傾いた建物。最大12cm沈下した。室内で丸いものを転がすと一定の場所に転がっていく。床もひび割れていた。しばらく滞在していると、気持ちが悪くなる。地域の方はこの場所を今も使っている。



建物が傾く



道路・建物に亀裂が

水がなくなると、壊れてしまうということが
 当たり前か、壊れてしまう怖さを感じました。便利さだけに目を向けず、それで苦しんでいる人々や生き物、自然にまで目を向けることが大事だと思いました。
 小里予永谷道



大湫の「今」を知りたい



地盤沈下で沈み、建物や道路に亀裂ができた。住民はここで今も生活している。

高校生も思いが溢れる



天王様の井戸：地域には十数か所の井戸があり、皆で管理している。何ヶ所も涸れていた。

最初はかたおいている地面を見て体で感じて怖い思いをしたけど、住んでいる人の熱弁を聞いて、大湫がこんなことで負けるわけないと思いました。この思いを未来につなげていきます。
 そらた

大湫は素敵な宿場町



大湫の方々へ
 この前は大湫のことをいろいろと教えてくれてありがとうございました。大湫の大切な水がなくなったのは本当に言えないと思いました。そんな数少なくなりました大湫の大切な水をいただい本当にうれしかったです。ありがとう。和太鼓支部でも木楽会があればぜひよんどほいします。
 2-B 山口隼夫

くまが「いふんが」
 言ったように大湫めっちゃいいとこでした！
 石井 琉暈羽

大切な水が失われた



「ここにはメダカとかもいたんだよ」そう教えてくれた地域の方の顔は寂しそうに見えた。



地域の方「この家のすぐ近くに住んでいるんだよ。水が減ってこのため池にも流れてこなくなった」「水の流れる音が聞こえなくて寂しい」

大切な思いが失われた



僕はリニア工事は反対です。南アルプスの自然が壊されるなんて考えられないと思っていました。だけど、南アルプスだけの問題だけではなく、大湫町でも水が枯れていてますますリニアいらないなと思いました。大湫の水は神の水だと思う。たっちゃん小さい頃からおもてた大湫の水、まるで一緒に育った家族が突然いなくなったようなものだと思う。100%は戻らなくても、大湫に絶対水は戻ってほしいと思いました。 全巻末 悠矢

尾瀬湖の
現地の人々の心からの声をきいて、井戸が枯れて子のをみて、思ってたよりぜんぜんたいへんでかなしいと思いました。 ありがとうございました!

3年 高橋 きの
大湫の自然を見たときに僕は、とても美しいと思いました。山や田んぼはもちろん、人の心も大湫の水のように美しいと思いました。水がなくなるということは、目にみえない別のものを無くな



リニアについて、大湫について教えてくれてありがとうございました。私は水で遊ぶのが好きです。きっと大湫のみなさんも好きです。大湫の水が少なくなっているのはとても悲しく思います。JR東海との話し合いがうまくいくことを願っています。負けないで!! 3年 恒川 れい



僕は新幹線が好きだから、反対はしない。でも、「僕はリニアに反対しない、ただ元々あった生活を返して欲しい」という言葉がひびいた。

水の味とか違いは分らないけど大湫の水で知って飲ぶから心持がよくて最高の水なのにそれを奪うのは悲しいし許せなくて双方が納得できる結果になってほしいと思った。 伊藤 留大 王

大湫訪問後、近隣の滝めぐり&絶景ポイントへ



この水も大湫と繋がっている



あの山々の地下深くをリニアトンネルが通る計画なんだ



詩「水」

作：2025 グラウトマース

- 動物に必要なもの
- 神の水
- 地盤沈下
- 地球の中身
- 水枯れ
- 飲んでも浴びても気持ちの悪いもの
- 自然という生き物の血液
- 滑る(ぬめる)
- 人間にコントロールできないもの
- 地球をめぐり、命をめぐる
- 飲み物
- パレット
- 水まんじゅう
- 米
- 海
- 山のめぐみ
- 沢
- 大湫
- 大湫の遊び場
- 思い出
- 当たり前じゃなかったもの
- 記憶の水槽
- 歴史の目撃者
- わたし
- 声の水筒
- うまい!
- いろんな味
- たっちゃん
- お前の70%

無くなつてから気づく大事なもの
生活に必要なもの
当たり前になる、ありがたさ
生き物の基礎
みんなの命を育むもの
自慢できるもの
みんなのもの
替えのきかない財産
無くなつてはいけないうもの
当たり前が無くなる怖さ
大切なもの
周りが敵になつても守りたいもの
ぜんぶ
汎用性抜群
命のつながり
生命の源



前号、スタッフ池田が30周年記念誌に寄稿した文章を掲載しましたが、今号は成瀬さんの記念誌寄稿文を掲載いたします。GE誕生、そしてGEの軸となるお話しです。なぜGEが誕生したのか、そしてどんなことを大切にしているのか、成瀬さんが語っています。すべての始まりの話。そして未来への希望のお話しです。是非、お読みください。

「グレートアースの誕生と発展、そして未来へ」

グレートアース担当：成瀬陽一

僕は還暦を過ぎた今も地球の裏側にまで出かけ、探検的な沢登りを続けています。この道四〇年以上、命がけの冒険を何度も行い、今も生きのびています。人は遊ぶために生まれてくるのだと思っています。だから本気で遊び続けてきました。沢登りは趣味を越え、仕事を越え、今となっては僕の人生(生き方)そのものとなっています。黄柳野高校にはそんな僕を受け入れてくれるおらかさ、懐の深さがありました。グレートアースの誕生は実はそこから始まっています。

「黄柳野高校へ」

大学卒業後、ひよんな縁(ヒッチハイクしたらフリースクールに連れて行かれた)で南アルプス最奥の限界集落で不登校児たちと暮らすことになりました。山村での暮らしは、湧水から水道を引いたり、ドラム缶風呂の薪を作ったり、人糞農法による有機野菜作りなど、生活を自らの手で作り出さなければならぬ厳しさと深い喜びがありました。そして感性豊かな子供たちと頑固で素朴な村人(じじいば)との触れ合いの中から、本物の豊かさというものを教えられました。

そのフリースクールの卒業生が進学先として選んだのが黄柳野高校でした。親代わりにも何度かその子を見学に連れて行くうちに、当時の教頭から理科の教員が足りないと言われ、初めは社会人講師として雇われました。開校から半年経った一九九五年十月のことでした。学生時代から教育分野に興味はなく、沢登りに夢中になって留年していたくらいですから、当時教員資格はありませんでした。周りから自由人だから真つ先に辞めるだろうと言われながら、気が付けば今年で三一年間も通い続け、古株の一人になってしまいました。

書を教えるのは苦手で、何かにつけてフィールドワークという名目で外に出かけてきました。そして学内では見られない生徒たちの生き生きとした姿、エネルギーに驚かされました。でも、彼らをさしおいて一番に楽しむのは自分です。例えば、刺激的な大岩を見つければ高みへと登りだし、川に行けば真つ先に跳びこみ、洞穴があれば潜つてしまします。本気で遊ぶ！それが学びの第一歩です。地球の素晴らしさや可能性を、言葉ではなく、「自分の後ろ姿で見せる」しかないと思っています。そんなやり方に魅かれて集まる生徒たちには、探検部を創設して入ってもらいました。そして、多くの生徒たちを弟子として育ててきました。ひたすら遊びを追求する毎日を送っていました。

「二つの転機」

そんな僕に転機が訪れました。二〇一一年三月十一日の東日本大震災でした。当時の探検部の生徒から「早く現地に行つて自分たちもボランティアに加えられるように話を付けてきてほしい」と頼まれました。彼らの後押しのおかげで、僕は震災後すぐに現地に飛び込むことが出来ました。東北各地の被害は想像を超えるものでした。すべてが流されて広大なサラ地となつてしまつた陸前高田のはずれで、何もかもが津波に飲まれていく光景が目に見え、涙が溢れました。何かしたい、そして生徒たちにも地球の厳しさと命のしびとさや温かさをこの場で学んでもらいたい！そう思いました。

それから三ヶ月後の六月、「黄柳野高校ボランティアチーム」を結成して宮城県との連携もいえる牡鹿半島で何日も作業させていただきました。悩みを抱えた高校生たちが戦力になるのかという不安もありました。けれど現実はいきました。彼らの未熟さこそが、未完のエネルギーこそが、被災された皆さんを元気づけていることに気づきました。

た。僕にはない彼らの若さ、そのエネルギーこそがこれからの希望なのだ！それから毎年のように、日本各地の被災現場へ出かけるようになりまし。熊本地震の時も、西日本豪雨の時も、もちろん昨年の能登半島地震や水害の時にも。被災地で今日を精いっぱい生きていく皆さんとともに作業する時間は、生徒にとつても僕にとつても「深く」生きる時間でもあります。

もう一つの転機は、ひとりの卒業生との別れでした。ある日、とても可愛がつてきたひとりの卒業生が自ら死を選んだと知らされました。現役時代は、明るくひよんな生徒でした。就職して我が道を堅実に歩んでいると思つていました。信じられませんでした。僕は今まで生徒たちに何を伝えてきたのだろうか？何を伝え忘れていたのだろうか？

苦しい自問自答を長い間繰り返しました。確かに、地球の素晴らしさや、生きる楽しさは伝えてきたつもりでした。けれど、どれだけ命が尊く、自分自身の存在がどれだけ貴重であるのか。それを伝えきれていたらどうか。「この世界に生きるあらゆる命の重みは等しく、そして尊い。もちろん君の命も」と、そう、伝え、られ、たら。今も、悔いが残ります。

「グレートアースの誕生」

この地球上からやがて僕も消えていきます。これまで探検してきた地球の溪谷の驚異、誰も目にしたことのない絶景、生き物たちの気高さと美しき、沢登りの深い喜び。溢れるくらいにそんな思いを抱えて僕はひとり死んでいくって良いのでしょうか。願わくば、僕がこの地上から消えてもこの素晴らしき世界がずっと続いていてほしいと思つていました。未来に向けて何かを伝えたい。そんな衝動が日増しに強くなっていきました。

かという提案をもらったのです。「よつしや、やるっきゃない！」僕は即答しました。こうして強烈な自然体験と命の学びを両輪としたグレートアースが誕生したのです。自分自身にとつて、この取り組みは仕事ではなく人生の一つの到達点でもあります。「ヒト五〇ニシテ天命ヲシル」そんな使命にやつと辿りついた気がしました。

二〇一五年より始まつたグレートアースは、西表島サバイバルや知床岬徒歩到達チャレンジ、屋久島の巨大杉探索など、年に一、二回のダイナミックな大型企画と毎週木・金曜日午後の選択授業の中で積み上げていく命の学びを軸に行っています。今年で十一年目。岩登り、沢登り、サバイバルといったホンモノの自然体験にとどまらず、その活動は災害ボランティア、環境破壊(地球温暖化、リニア新幹線、)の現地学習、世界で起こっている紛争(ガザ、ウクライナ、)の学びや募金活動などへと大きく膨らんでいます。

「未来への責任」

グレートアースのようなダイナミックな自然体験を繰り返していると、「高校生たちに何かあったらどうする!？」とまつとうな意見をもらうことも多々あります。でも、「大人の責任から逃れたい」と思い続けて来ましたが、僕ら先に生きる者の責任とは、次の世代に生きる力と知恵を引き継ぐことに尽きると思います。けれど、それはシンプルですが容易なことではありません。覚悟を持って自分の体を張らなければ決して達成することのできない重たすぎる責任なのです。でも、僕らがそこから逃げてしまつていけば、子供たちに何が伝わるというのでしょうか。だからこそ、覚悟をもってグレートアースを続けなければと思つているのです！

ます。誰に論されるのでもなく、教えられるのでもなく、遊び続けた果てに黄柳野高校でグレートアースという大切な学びに辿りつきました。だから若い人たちに大自然の中で精いっぱい遊んでほしいと伝えたいのです。

遊んで遊んでその中から出てきた答えこそが重みをもつ！

大自然の中でまつすぐに育つた感性は、決して間違つた未来の選択をしな。そう僕は信じています。

どんなに傷ついても、地球の未来を信じて生きていく。

僕はそう決めたのです。

黄柳野高校グレートアース担当 成瀬陽一



「グレートアースのInstagram」

活動や思いを紹介中です！是非お読みください！



GREAT_EARTH_TSUGENO

編集後記(さ) 今でも大湫を訪れた時のことを思い出すと笑みが出る。まだ地域の方が全員集まる前なのに説明が始まり、その勢いと親しみやすさで自然とついていった。少し経つと自転車に乗つたお母さんが現れたかと思つたら、地盤沈下した建物の鍵を開けてくれて、ガシガシ説明が始まつた。「あつ！この方も案内メンバーのお一人だったのか」と思つていたら、「次は、次は」とどんどん説明してくれる。何も隠さず、そのままの姿でまるで孫たちを受け入れるかのように気さくに接してくれる大湫の方々。帰り際は別れが寂しくて、もうちよつと居たいなと思つた。大湫が特別な場所になつた。この町が幸せであつてほしい。日本中、世界中が心で繋がれば悲しい思いをする社会は無くなるのではないか。いつもそう思う。それは環境、人権、平和などの問題も同じだと思つた。「平和は微笑みから始まります」という平和を願う言葉をみつけました。同感。